

北海道大学ヘルシンキオフィス開所式を挙行 名誉教授称号授与式の挙行

お知らせ

- ・平成24年度北海道大学公開講座（全学企画）「私たちの未来とリスク」
- ・「北海道大学 緑のピアガーデン2012」のご案内
- ・北海道大学インフォメーションセンター「エルムの森」及び「エルムの森ショップ」時間延長のお知らせ



1 研究戦略と産学連携

全学ニュース

- 2 北海道大学ヘルシンキオフィス開所式を挙
- 3 ロシア 北東連邦大学と大学間交流協定を締結
- 4 名誉教授称号授与式の挙
- 4 講演会「大学における男女共同参画推進の重要性－大学改革の観点から－」を開催
- 5 平成23年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
- 6 北大フロンティア基金
- 8 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
- 9 「北海道海外留学フェア2012」を開催
- 9 「海外留学説明会」及び「短期語学研修プログラム説明会」等を開催
- 10 動物実験実施者等教育訓練を実施
- 10 遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を実施

部局ニュース

- 11 工学研究院「フロンティア化学教育研究センター」を設置
- 11 地球環境科学研究院・環境科学院がGEOMAR-ヘルムホルツ キール海洋研究センターと部局間学術交流協定を締結
- 12 ロシア 北東連邦大学での協定締結記念式典に、文学研究科の教員が出席
- 13 スラブ研究センターが平成24年度公開講座「ユーラシアの自然と環境は誰が守るのか」を開催
- 14 薬学部が第15回生涯教育特別講座を開催
- 14 獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催
- 15 函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
- 16 北海道大学病院が臨床研究中核病院整備事業に選定
- 16 看護週間－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施



ヘルシンキオフィスの建物



私費外国人留学生特待プログラム採用証書授与式

- 17 北海道大学病院で「第64回国立大学病院看護部長会議」を開催
- 18 附属図書館で「北大ビブリオバトル第1回大会」を開催
- 19 大学文書館で大学関係の記念品・物品を収集
- 20 大学文書館で元総長丹保憲仁名誉教授より資料を受贈
- 20 大学文書館で櫻井俊郎旧蔵資料を受贈
- 21 大学文書館で諏訪望旧蔵資料を受贈

お知らせ

- 22 平成24年度北海道大学公開講座（全学企画）「私たちの未来とリスク」
- 23 「北海道大学 緑のピアガーデン2012」のご案内
- 23 北海道大学インフォメーションセンター「エルムの森」及び「エルムの森ショップ」時間延長のお知らせ

諸会議の開催状況 24

学内規程 24

表敬訪問 25

人事 26

- 26 新任教授紹介

資料

- 27 在籍学生数（平成24年5月1日現在）
- 29 平成24年度外国人留学生数（平成24年5月1日現在）
- 30 平成24年度国別外国人留学生数（平成24年5月1日現在）
- 31 平成23年度卒業・修了者の就職等状況一覧

地球環境科学研究院・環境科学院
部局間学術交流協定締結獣医学部
「地方自治体等合同就職説明会」

札幌博物学会の印章

元総長 丹保憲仁名誉教授
大学院生時代の受講ノート

表紙：旧医学部建物と中庭（1955年）

裏表紙：北の息吹[®] エゾオヤマノエンドウ (*Oxitropis japonica* var. *sericea*)

研究戦略と産学連携

研究、産学官連携、知的財産、安全担当理事

う え だ い ち ろ う
上田 一郎



大学の役割は、教育と研究を通じて社会に貢献することです。研究のテーマは多様であり、その領域も目まぐるしく移り変わっていきます。大学には、先端的研究および将来世界をリードする研究を推進するとともに、中・長期的な視野で個々の教員の研究体制を支援することが望まれます。支援の中には、多様な研究活動に伴う安全の確保も含まれます。また、支援だけではなく、最新の研究成果を社会に還元する仕組みを整備する必要もあります。

本学の具体的な研究戦略は、総長室のひとつである「研究戦略室」において計られます。その主たるものとして、「重点研究領域の選定」、「先端研究や融合研究の支援」、「若手研究者や国際共同研究支援」などがあり、これらの策定を中期目標に沿って行ないます。研究戦略室は、創成研究機構、産学連携本部、安全衛生本部と連携をとりながら、研究を支援しています。以下では、これらの機構と本部について紹介します。

創成研究機構

平成21年4月に設置された創成研究機構は、学内の20の研究所と研究センター等を構成組織として連携機能の充実を図り、その研究活動と運営状況について大学運営の観点から評価を行っています。

また、機構内に設置された研究部では、部局を超えて研究者が参加するプロジェクトの運営を支援し、また物理的に場所も提供しています。例えば、戦略重点プロジェクト研究部門やプロジェクト研究部門は、主に外部資金による大型プロジェクトの運営にあたっています。また大学としても、特定研究部門において先端・融合研究や実用化研究を公募し、全体で4件採択して支援しています。

共用機器管理センターでは、全学の研究機器について共同利用体制・運営の整備拡充を図っています。有機化合物の構造解析に関わる分野で、大型分析機器を用いて委託分析を行っていた「機器分析センター」と、創成研究機構、触媒化学研究センター並びに電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センターが所有する研究機器を、「オープンファシリティ」として学内外の研究者の利用に供していた機能を統合した組織です。

産学連携本部

本学は教育と研究に加えて、産学連携や公開講座による社会への知の還元を、積極的に取り組んでいます。研究が基礎であれ応用であれ、その成果が知財として保護の対象となりうるかを判断する必要がありますが、産学連携本部はこの知財保護の手助けをします。

なぜ、知財保護をするのでしょうか？その先には、研究成果の実用化があります。研究成果は、研究者個人の好奇心から生まれたものかもしれませんが、実用化するためには、様々な観点からその可能性を伸ばしていかなければなりません。企業が参画することもありますし、はじめに成果を生んだ研究者の分野に加え、実用化に必要な異分野の研究者が関わる必要も出てきます。それに応じて、共同研究契約の締結をするほか、大学のプロジェクト参加への役割も明確にしておかなければなりません。このような支援も産学連携本部の仕事です。

安全衛生本部

多様な研究活動に伴う安全の確保は、大学において重要な課題です。平成16年4月、国立大学法人化に伴って、教職員は人事院規則により管理される国家公務員から国立大学法人の構成員に変わるとともに、安全衛生管理等については労働安全衛生法が適用され、関連の法令も含めて遵守することが求められるようになりました。これに伴い、全学に関連法令を周知、教育、管理徹底するため安全衛生本部を立ち上げました。

終わりに

本学は、人文・社会・自然科学のほぼ全ての領域を網羅しています。質・層ともに充実した最先端の基礎研究から応用研究まで、今後も総合大学の強みを発揮し、世界をリードすべく特色ある研究を推進して参ります。

■全学ニュース

北海道大学ヘルシンキオフィス開所式を挙行



出席者での記念撮影

6月1日（金）、北海道大学ヘルシンキオフィス開所式をフィンランド共和国ヘルシンキ市のヘルシンキ大学内で開催しました。

本オフィスは、欧州からの留学生受入れ、同地域との共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、その活動のベースとして、本年4月1日に設置されたものです。

開所式には、佐伯 浩総長、本堂武夫理事・副学長をはじめとする計19名の本学関係者と、欧州の交流協定締結校、学術関係機関、在フィンランド日本国大使館、ヘルシンキの一般市民など100名以上が出席し盛大に行われ、総長挨拶の後、丸山 博駐フィンランド日本国特命全権大使、ヤリ・グスタフソン 駐日フィンランド大使、トーマス・ヴィルヘルムソン ヘルシンキ大学長、オッリ・シルヴェン オウル大学副学長及び藤井義明日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター長から祝辞をいただきました。

開所式の後は、「Cooperation between Japan and Europe（日本とヨーロッ

パの協力）」をテーマとして、田畑伸一郎ヘルシンキオフィス所長の司会により、本堂理事・副学長、レイン・ラウド ヘルシンキ大学教授、バート・ガエンズ フィンランド国際問題研究所教授、オウティ・スネルマン 北極圏大学副学長、ラインハルト・ピュッツ ミュンヘン大学教授らのパネリストによるパネルディスカッションが行われました。

また、昼食とオフィスの内覧会を行った後、「Japanese Pop Culture : A Window on Japan（ポップカルチャーを通して見る日本）」と題して、開所記念シンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、フィリップ・シートン 国際本部役員補佐（メディア・コミュニケーション研究院准教授）の司会により、ピーター・マタンレ シェフィールド大学講師、山村高淑観光学高等研究センター准教授、中村三春文学研究科教授、コンスタンチン・イシェンコ Rovesnik Monthly編集者ら4名の講演者と、討論者であるカティア・ヴァラスキヴィ タンペレ



挨拶する佐伯総長



ヘルシンキオフィスの建物

大学教授から、近年、欧州でも人気が高まってきている日本の漫画やアニメ等のポップカルチャーをテーマに様々な視点から講演があり、講演終了後は参加者から多くの質問が寄せられました。

これらのプログラムにより、日本と本学について、大いにアピールすることができました。今後はこれを契機に、ヘルシンキオフィスの活動を通じて、欧州における大学間・部局間交流協定校との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流が、より一層強化されることが期待されます。

（国際本部国際連携課）

ロシア 北東連邦大学と大学間交流協定を締結

4月2日（月）、ロシアの北東連邦大学と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書を締結しました。これは、本学として110番目、ロシアでは6校目の大学間交流協定となります。

同日、北東連邦大学では本協定締結を記念して研究者や学生が集まり、同大学を訪問していた文学研究科（提案部局）の教員とともに締結を祝いました。また、その後は学術交流の今後の

計画について懇談が行われました。

ロシア連邦は2009年に大きな大学制度改革を行い、既存の中堅大学を中心に地域の研究機関などを統合し、全土に7つの「連邦大学（Federal University）」を指定しました。北東連邦大学は、東シベリアに位置するサハ共和国の国立ヤクーツク大学が中心となってできた大学で、学生約2万人、教職員7千人が在籍しています。本学

では、地球環境科学研究院が2008年に同大学と部局間交流協定を締結して交流を進めてきました。

今後、両大学の交流をベースとして、本学及び日本の北極・北方に関する教育研究活動がさらに展開することが期待されます。（関連記事12頁）

（国際本部国際連携課）



北東連邦大学のキャンパス（同大学提供）



北東連邦大学の学生寮など（同上）

名誉教授称号授与式の挙行



名誉教授称号授与式出席者一同

先に本学名誉教授に決定された方々（58名）に対する称号授与式を、6月5日（火）午前11時から学術交流会館講堂において執行了いました。

当日出席された29名の名誉教授一人ひとりに、佐伯 浩総長が称号を授与した後、長年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウスエンレイソウ「レストランエルム」において、道内在住の名誉教授と部局長・役員との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が、経済学研究科を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、部局長、役員合わせて79名が出席し、経済学研究科 吉見 宏研究科長の開会の辞に始

まり、佐伯総長の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあった後、本堂武夫理事・副学長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、吉見経済学研究科長の閉会の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

（総務企画部人事課厚生労務室、
経済学研究科・経済学部）

講演会「大学における男女共同参画推進の重要性 —大学改革の観点から—」を開催

5月16日（水）、事務局大会議室において、文部科学省高等教育局長 板東久美子氏による講演会を開催しました。

当日は、役員、各部局等の長、教育研究評議会の評議員、男女共同参画推進員等、72名が参加しました。

講演に先立ち、佐伯 浩総長から挨拶があった後、人材育成本部女性研究者支援室長の有賀早苗教授から、本学

における男女共同参画推進の状況について説明がありました。

講演では、大学における男女共同参画推進の意義・必要性、現状と課題等について説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

（研究推進部研究振興企画課）



講演する板東局長



講演会の様子

平成23年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、9年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたことを本誌面をお借りしてお礼申し上げますとともに、平成23年度決算をご報告します。

さて、本後援会の事業は、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証、留学生の入院に伴う連帯保証、留学生の疾病

及び不測の事故等に対する経済的支援並びに留学生支援団体に対する経済的支援等を行うものであり、特に留学生の賃貸住宅入居及び入院に伴う連帯保証事業は、指導教員及び留学生の精神的・労力的負担の軽減に役立っているところです。これに加えて、平成20年に、一時金貸付制度を創設し、臨時に資金が必要になったときに5万円を限度として貸付を行い、当面の生活の安定に寄与することとしました。これも

ひとえに皆様のご協力とご支援の賜と感謝しております。

なお、皆様の会費は北大フロンティア基金の寄附金として取り扱うこととなっており、2千円を超える場合は税法上の優遇措置を受けることができません。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(国際本部国際支援課)

平成23年度北海道大学外国人留学生後援会決算書

自) H.23.4.1

至) H.24.3.31

1. 収入の部 (平成24年3月31日現在)

単位: 円

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度からの繰越	31,880,411	31,880,411	
会費	3,971,400	3,759,600	6月期徴収額 1,879,800 12月期徴収額 1,879,800
立替払い返戻金	0	23,250	1件
一時金貸付金返戻金	50,000	50,000	1件 (平成22年度貸付分で、平成23年度に返戻があったもの)
収入合計	35,901,811	35,713,261	

2. 支出の部 (平成24年3月31日現在)

単位: 円

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	204,727	家賃等の立替払い 4件
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	0	
留学生を支援する団体に対する経済的支援	0	0	
予備費	26,401,811	0	
支出合計	35,901,811	204,727	

3. 差引額

単位: 円

翌年度に繰越		35,508,534	
--------	--	------------	--

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。平成27年度末までに募金目標額50億円の半分程度の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	13,255件 2,488,989,996円
基金累計額 （5月31日現在）	教職員の寄附率 27.9%（1,094件／3,917人）

5月のご寄附状況

法人等16社、個人161名の方々から13,269,230円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社開発調査研究所、北の森どうぶつ病院、釧路赤十字病院、工学部資源57期、独立行政法人国立病院機構 函館病院、シー・アニマルクリニック、有限会社J&F Trading Company、清水建設株式会社、株式会社しょうだ動物病院、総合病院 伊達赤十字病院、株式会社日本触媒、広小路クリニック、北大土木47期卒業40周年記念、医療法人社団明生会 琴似ロイヤル病院、株式会社リンクル

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	足立 正	阿部 千種	阿部 哲夫	天野 洋一	荒田 吉彦	飯田 秀文	池田 肇
石尾 右哉	石塚 敏	伊藤 研司	伊藤 千秋	伊藤 博夫	稲波 修	岩永 政義	植田 正
上田 敦	上田 雅敏	采 孟	江口 良策	大内 継也	大藤 泰雄	大畑 昇	小川 泰弘
小内 透	小原 大和	加賀 幸彦	柿崎 有紀	亀澤 一昭	亀丸 俊一	神田 大輔	岸田 幸也
木村 園子 ドロテア	木山 保	草間 慶子	倉西 森大	栗林 道夫	小池 清峰	光山 慎一	小西 俊治
小林 一郎	小林 一司	小林 伸一	小向 章市	斎藤 雅一	坂井 洋一	桜井 郁郎	佐藤 一夫
佐藤 紘一	佐藤 哲也	鮫島 良次	澤村 文雄	清水池義治	白田 廣一	鈴木 学	鈴木伸太郎
須藤 和昌	瀬川 信久	関口 昇	瀬田石瑠枝子	瀬名波栄潤	高桑 亮	高橋 光彦	田口 竜也
竹内 信彦	竹中 初男	竹原 勇樹	谷口 浩治	竹馬 俊介	千葉 依里	千葉 悌	辻 康夫
土家 琢磨	寺澤 睦	富樫 辰志	徳岡麻比古	富永 靖	富山 貢	豊田 威信	中尾 喜一
中岡 治清	中畠 孝幸	中谷 良弘	奈良岡浩二	鳴海 勇蔵	西平賀隆一	西山 恒夫	根元 浩幸
野坂 政司	秦 緑	花岡 二郎	幅崎 浩樹	原 佑輔	引地 教雄	平岡 淳一	平松 達弥
福井 佳代	藤川 秀樹	布野 榮一	古田 康	星野 謙蔵	本田 進	本間 昭一	正木 信榮
増山 邦彦	松井 豊	松本 豊	三上 隆	水田 富夫	三田 勝久	三宅 正紀	宮坂 榮二
宮本チップ	武藤 俊一	村瀬 光正	元木 峰一	森 芳雅	森田 博志	安田 匡	山崎 賢司
山下 修作	山田 大志	吉井美代子	吉田 次夫	吉田 広志	脇坂 明美		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

北の森どうぶつ病院，釧路赤十字病院，独立行政法人国立病院機構 函館病院，有限会社J&F Trading Company，
清水建設株式会社，総合病院 伊達赤十字病院，株式会社日本触媒，北大土木47期卒業40周年記念，
医療法人社団明生会 琴似ロイヤル病院，株式会社リンクル

（個人）

小向 章市，須藤 和昌，中尾 喜一，村瀬 光正，吉井美代子

感謝状の贈呈

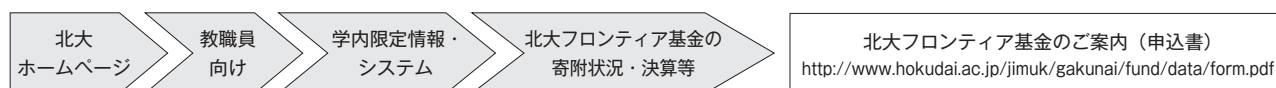


JFEホールディングス株式会社様
（平成24年5月28日）

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は，本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし，ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は，本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか，各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので，ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム 留学生採用証書授与式を挙



採用証書を手に記念撮影

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生に採用され4月に入学した留学生に対し、同特待プログラム留学生採用証書授与式を、4月27日（金）に国際本部大会議室で行いました。

授与式には、本堂武夫国際本部長を始め関係者が出席し、本堂国際本部長から留学生一人ひとりに採用証書が手渡されました。

この特待プログラムは、平成20年度から特待制度特待プログラム奨学金としてスタートしましたが、平成24年度から、検定料、入学料及び授業料を不

徴収にする制度に改正されたもので、国際的な貢献に寄与する人財を育成することを目的として、学業成績が極めて優秀で、かつ、本学の教育研究に深い関心を持つ大学院の研究科及び学院の博士後期課程（医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科にあつては博士課程）に入学する私費外国人留学生を対象としています。

現在は、今回の4月入学者の2名を含め、30名の特待プログラム留学生が在籍しています。

（国際本部国際支援課）



本堂国際本部長から採用証書を授与

「北海道海外留学フェア2012」を開催

国際本部において、5月19日（土）に財団法人日本英語検定協会主催、国際本部共催による「北海道海外留学フェア2012」を開催しました。

本フェアは、北海道地区では初めて実施されたもので、アメリカ大使館・日米教育委員会、ブリティッシュ・カウンシル等の各国大使館及び各国の政府機関等が参加し、海外留学についての情報提供が行われました。

当日は、200人以上の参加者が会場を訪れ、各団体のブースには、個別相談を希望する参加者があふれ、一部の

団体のセミナーは満席になるほどの盛況ぶりでした。

国際本部では、海外留学説明会を定期的に開催するほか、地域別・プログラム別説明会・各種セミナーを充実させるなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。

国際本部では、留学相談も行っていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

（国際本部国際支援課）



ブースでの相談風景



セミナーの様子

「海外留学説明会」及び「短期語学研修プログラム説明会」等を開催

国際本部において、5月21日（月）の昼休みに「海外留学説明会」を、夕方に「短期語学研修プログラム説明会」を開催しました。

各説明会では、冒頭に文学研究科瀬名波栄潤准教授より、この機会を利用して、留学について積極的に考えてほしいとのメッセージがありました。次いで、国際支援課より、本学の留学制度の概要や、本学が提供する短期語学研修プログラムについて説明があった後、交換留学経験者、短期語学研修プログラムの参加者からそれぞれ体験談が披露され、学生は熱心に耳を傾けていました。

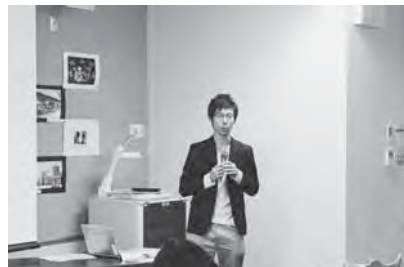
このほか、5月18日（金）には、国際教育交換協議会（CIEE）による海外ボランティア説明会を、5月22日（火）には、教育学部の部局間交流協定校であるイギリス・リーズ大学による英語教授法コースについての説明会を開催しました。

国際本部では、上記のように、海外留学説明会を定期的に開催するほか、地域別・プログラム別説明会・各種セ

ミナーを充実させるなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。

国際本部では、留学相談も行っていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

（国際本部国際支援課）



アメリカ留学経験者による体験談
（交換留学・マサチューセッツ大学）



国際支援課担当者による説明（短期語学研修プログラム説明会）

動物実験実施者等教育訓練を実施

5月15日（火）、5月17日（木）に動物実験の従事者を対象にした教育訓練を、クラーク会館講堂において開催しました。

この教育訓練は、動物実験の従事者に、関係法令、本学規程等の基礎的な知識、実験を申請するに当たっての留意点及び実験を実施する上での注意事項等について理解してもらうことを目的としたもので、本学規程で受講が義務付けられているものです。

今回の教育訓練には、職員・学生等合わせて約550名が出席し、動物実験委員会委員長である医学研究科 有川二郎教授、同委員会委員の獣医学研究科 安居院高志教授、理学研究院 北田一博准教授、医学研究科 小山内努特任助教が講義を行いました。

今回受講できなかった従事者の方は、次回の教育訓練をぜひ受講するようお願いします。

（総務企画部総務課安全衛生室）



講義を行う有川教授



講義を行う安居院教授



講義を行う北田准教授



講義を行う小山内特任助教

遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を実施

5月22日（火）に遺伝子組換え実験等の従事者を対象にした、遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を、クラーク会館講堂において開催しました。

この講習会は、遺伝子組換え実験等の従事者に、関係法令、本学規程等の基礎的な知識及び実験を申請するに当たっての注意事項等について理解してもらうことを目的としたもので、本学規程で受講が義務付けられているものです。

今回の講習会には、職員・学生等合わせて約900名が出席し、遺伝子組換え実験等安全委員会委員長である、薬学研究院 有賀寛芳教授が講義を行いました。

今回受講できなかった従事者の方は、次回の講習会をぜひ受講するようお願いします。

（総務企画部総務課安全衛生室）



講義を行う有賀教授



会場の様子

■ 部局ニュース

工学研究院「フロンティア化学教育研究センター」を設置

平成24年6月1日、工学研究院内に化学のフロンティア研究及び人材育成を推進する組織として「フロンティア化学教育研究センター」を設置しました。

同センターには、物質デザイン化学分野、分子変換化学分野、機能創成化学分野、機能解析化学分野の4つの研究分野を設置し、2010年ノーベル化学賞を受賞した「パラジウム触媒を用いた鈴木-宮浦クロスカップリング反応」に代表される触媒を基盤とする物質科

学分野での先導的研究や従来の枠にとられない分野融合新領域研究を推進する予定で、工学研究院、理学研究院、触媒化学研究センターに所属する16名の教員、特任教員で構成・運営され、センター長には工学研究院の宮浦憲夫特任教授が就任しました。

これまでに構築したスイス連邦工科大学チューリッヒ校、ストラスブール大学、北京大学、清華大学、ソウル国立大学校などの欧米、アジアの拠点大学との学術交流を強化し、共同研究な

どを進めるほか、海外の第一線の研究者による最先端の講義、企業経験者による産業実学講義などを行い、次世代を担うグローバルリーダーなどの人材育成にも力を入れる予定であり、本学でのフロンティア化学分野の国際教育拠点形成として一翼を担うことが期待されます。

(工学院・工学研究院・工学部)

地球環境科学研究院・環境科学院がGEOMAR-ヘルムホルツキール海洋研究センターと部局間学術交流協定を締結

5月31日(木)、地球環境科学研究院・環境科学院はドイツGEOMAR-ヘルムホルツキール海洋研究センターとの間で部局間学術交流協定を締結しました。これは研究者・学生による海洋科学及び学生交換プログラムについて、教育的・学術的な相互交流を推進するというものです。

キール海洋研究センターは、「気候変動における海洋の役割の解明」、「生物源鉱物及びエネルギー」、「海洋生態

系に対する人為的インパクト」、「プレートテクトニクス及び海洋防災」の研究において、世界でもトップレベルの研究機関です。

キール海洋研究センターで行われた調印式では、同センターからマーティン・ヴィスベック教授をはじめ関係者が、本院からは嶋津克明地球環境科学研究院長・環境科学院長、福井 学教授(低温科学研究所)、山中康裕教授、島村道代特任助教、岡田直資特任助教

が出席しました。

また、当日はミニシンポジウムが行われ、お互いの部局における教育研究活動の概要について、先方からはヴァール教授、ヴィルヴォック博士、レンツ博士、博士課程のヴェイゲルさん、本院からは嶋津研究院長・学院長、山中教授が紹介を行いました。

(環境科学院・地球環境科学研究院)



調印式の様子



調印式後の記念撮影

ロシア 北東連邦大学での協定締結記念式典に、 文学研究科の教員が出席



記念式典後の記念撮影

本学と大学間学術交流協定を締結したことを記念し、ロシア連邦サハ共和国の北東連邦大学において、協定締結記念式典が締結日である4月2日(月)に行われました。式典には、エフゲニー・イサエヴァ学長(元副大統領)や3名の副学長、約20の部局の代表者(教員、学生)に加え、関連する諸研究機関(ロシア科学アカデミーシベリア支部など)の来賓も出席し、現地のテレビニュースや新聞にも大きく取り上げられました。

この式典には、提案部局である文学

研究科から立澤史郎助教が出席するとともに、式典後には、今後の学術交流の具体的な計画について懇談が行われました。北東連邦大学からはすでに本学の3部局(農学院、環境科学院、文学研究科)に大学院生3名の留学実績がありますが(うち2名は学位取得後帰国)、式典に出席した学生や教員からは次々に交流のアイデアが飛び出し、今後一層の交流が進むことが期待されます。

(文学研究科・文学部)



講堂で行われた記念式典の様子



今後の交流計画に関する懇談の様子



イサエヴァ学長(左)に
本学から記念プレートを贈呈

スラブ研究センターが平成24年度公開講座 「ユーラシアの自然と環境は誰が守るのか」を開催

5月11日（金）から5月31日（木）まで、週2回公開講座を開催し、市民向けの講演を行いました。講座では、西はヨーロッパのドナウ川水系から始まり、中央ユーラシアのアラル海やバルハシ湖に注ぐ内陸大河、そして東アジアの海につながるアムール川流域という、スラブ・ユーラシアの国際河川域を取り上げ、自然環境と社会変動ないし、国際関係との係わりを多面的に検討しました。

スラブ・ユーラシア地域では20年ほど前に社会主義体制が崩壊し、新たな国境が生まれました。また隣接地域との関係も大きく変容してきています。自然環境は本来、社会や政治の変化と無縁ですが、現実には大きな影響を受けています。ユーラシアにおける自然環境は、体制変動の結果として、今どうなっているのか。誰がそこに目を向け、誰が自然環境を守っていくのか。講演者からはこのような課題が示されました。

本講座を通して、ユーラシアの東端に位置する日本、なかでもロシアや中国と一衣帯水の位置にある北海道が果たすべき役割などについて、60名ほどの聴講者の皆さんから様々な質問や意見も提示され、熱い議論で終了時間を過ぎてしまうこともありました。

講演題目と講演者は以下のとおりです。

（スラブ研究センター）

講演題目・講演者

「ドナウ中流域と環境汚染事故への対応」	家田 修（スラブ研究センター教授）
「中央ユーラシアの人と自然の歴史：ユーラシア深奥部の眺め」	窪田 順平（総合地球環境学研究所教授）
「ドナウ・デルタをめぐる国際法レジームのダイナミズム」	児矢野マリ（法学研究科教授）
「中央アジアの政治史と水」	地田 徹朗（スラブ研究センター研究員）
「松花江の汚染と北東アジア水域」	相川 泰（鳥取環境大学准教授）
「アムール・オホーツク巨大魚付林と東アジア地域協力」	白岩 孝行（低温科学研究所教授）
「東アジアの環境リテラシー」	山下 哲平（日本大学助教）



ドナウ・デルタの国際紛争について話す
児矢野教授



聴講者による質疑の様子



アラル海の縮小について説明する地田研究員

薬学部が第15回生涯教育特別講座を開催

6月1日(金)、薬学部臨床薬学講義室において、生涯教育特別講座・春季講演会を開催し、薬学部同窓生、薬学部学生、薬学部教職員など、67名が参加しました。

薬学部生涯教育特別講座は、北海道大学薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事している方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施しています。

はじめに北海道大学病院感染制御部 副部長 石黒信久准教授より「予防接

種に関する最近の話題」という演題で、はしか、ムンプス、ポリオなどの予防接種に関する最新の情報が提供されました。続いて医学研究科がん予防内科学講座 浅香正博特任教授よりヘリコバクターピロリ菌感染と胃癌の関係について、本学から発信された研究成果の講演がありました。会場からは数多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。「予防接種の必要性やリスク、その効果について良く理解できた」「ヘリコバクターピロリ菌感染は国内の多くの胃癌の原因であることを

知り、驚きました」など、感想も多数寄せられました。

秋季の生涯教育特別講座は、9月29日(土)午後3時30分から開催します。札幌厚生病院 狩野吉康副院長、医学研究科消化器内科学分野 坂本直哉教授を講師に迎え、肝炎の基礎と臨床について講演していただく予定です。

詳細は決定次第、薬学部ホームページ (<http://www.pharm.hokudai.ac.jp/>) に掲載します。

(薬学研究院・薬学部)

獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催



就職説明会場の様子



熱心に説明を受ける学生

5月8日(火)、午後1時から同4時まで、獣医学部4年生から6年生を対象とした「地方自治体等合同就職説明会」を、獣医学部主催により開催しました。本説明会は、地方公共団体等の獣医師職を目指す本学部学生へ円滑に情報を提供することを目的とし、地方自治体が個別に来学し実施していた説明会を集約するため、昨年度より企

画したものです。

本年度2度目の試みであり、学生並びに自治体がどの程度参加するか不安もありましたが、過去に説明会を実施している、就職実績がある、出身学生の人数が多い、など様々な地方自治体等に参加を募ったところ25団体より賛同をいただき、当日は4年生から6年生の授業を休講にしたこともあり、2

年生から博士課程まで41名の学生が個別ブースにて熱心な説明を受けました。また、参加団体にも大変好評で来年度以降の実施を要望されました。

今後とも、より一層のキャリア支援体制の充実・強化を図るため、来年度の実施について検討する予定です。

(獣医学研究科・獣医学部)

函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施

函館キャンパスを対象とした春の構内清掃作業を、札幌のキャンパス・クリーン・デーの同日開催となる5月11日（金）に実施し、学生及び教職員等合わせて、約300名の参加がありました。

昨年度は雨天のため一度順延となった経緯がありましたが、今年度は天候にも恵まれ、新緑の季節を感じながら、当初の予定通り1時間程度で清掃作業を終了することができました。

当日は、割り当ての清掃範囲以外の場所も積極的に協力する学生が見受けられ、また、年々ゴミが少なくなっており、環境美化の意識が向上しているという印象を受けた一日でした。

なお、9月には、「秋のキャンパス一斉清掃」を実施する予定です。



ごみ取り作業を行う学生等（キャンパス中庭）

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



管理研究棟ホールでゴミ袋を配布



水産科学館前



大野新道沿い

北海道大学病院が臨床研究中核病院整備事業に選定

北海道大学病院は、5月25日(金)、厚生労働省が公募した「平成24年度臨床研究中核病院整備事業」の一つとして選定されました。

本事業は、日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患や小児疾患等の新規治療開発、最適な治療法の確立を目指し、国際水準の質の高い臨床研究を実施することを目的と

しており、この中で北海道大学病院は、臨床研究中核病院としてのその中心的な役割を果たします。

事業期間は、平成28年度までの5年間で、毎年度、設備・組織等の基盤整備に5億円程度、及び研究費に1億円程度が交付され、総額約30億円となるものです。

この事業を通じて、北海道大学病院は「信頼される臨床研究」を行い、「北海道から世界へ発信する」臨床研究拠点となるべく尽力する予定です。

(北海道大学病院)

看護週間ー「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施



北白石中学校による合唱



開会の挨拶をする西村副病院長



閉会の挨拶をする川畑看護部長

毎年5月12日(ナイチンゲール生誕日)は「看護の日」、また、この日を含む週間は「看護週間」として制定されています。今年も本院では、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しを行いました。

1階アメニティホールに設置した、病棟の様子を紹介する写真パネルのコーナーでは、大勢の方が足を止め、ひとつひとつに見入っていました。また、廊下に展示した、患者さんから看

護スタッフへ寄せられた温かいメッセージを読みふける職員の姿も見受けられました。

5月10日(木)には、「第22回看護の日の夕べ」が西村正治副病院長の挨拶で開会し、札幌市立北白石中学校による合唱コンサートが行われました。北白石中学校による合唱では、誰もが知っている馴染みのある曲が演目となっており、会場は大変盛り上がりしました。

この講演の様子は、本院アメニティホールに設置されたライブカメラを通じて、入院患者さんのベッドサイドで流れる無料放送でも放映されました。

「第22回看護の日の夕べ」は、盛況の中、川畑いづみ看護部長の挨拶で幕を閉じました。

(北海道大学病院)

北海道大学病院で「第64回国立大学病院看護部長会議」を開催



全体の様子

北海道大学病院が当番校となり、5月24日（木）・25日（金）の両日、JRタワーホテル日航札幌において、第64回国立大学病院看護部長会議を開催しました。

会議には、文部科学省から高等教育局医学教育課大学病院支援室の平野浩之室長及び市村尚子専門官、国立大学45大学の医学部、歯学部附属病院の看護部長等関係者49名が出席しました。「看護師確保・育成、そして未来へ」をテーマに行われた当会議では、今後10年、20年先を見据えて、大学病院に

求められる看護師像を描き、国立大学病院看護部のあるべき姿を描くスタートの会議となりました。国立大学附属病院院長会議で示された「国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて～その課題と展望～」作成の経緯を、事務局である千葉大学医学部附属病院の手島英雄事務部長からご講演いただいた後、地区ブロック毎の分科会で活発な意見交換が行われました。

(北海道大学病院)



西村正治副病院長による挨拶



議長を務める川畑いづみ看護部長
(右から3人目)



東北・北海道ブロックの分科会

附属図書館で「北大ビブリオバトル第1回大会」を開催

ポスター



秋元さんによるプレゼンテーション



池田さんによるプレゼンテーション

5月25日(金)午後6時30分から、附属図書館本館3階ラウンジにおいて、学生団体「北大ビブリオバトル実行委員会」の企画による「北大ビブリオバトル第1回大会」が開催されました。附属図書館では1月20日(金)に開催された「ビブリオバトル in 北海道大学附属図書館」に続き2回目のビブリオバトル開催となりました。

ビブリオバトルとは、(1)出場者が紹介したい本を持ち寄り、制限時間内でその本の魅力を語る。(2)参加者全員で本やプレゼンテーションの内容についてディスカッションする。

(3)「一番読みたくなった本」(チャンプ本)を参加者全員の投票で決定する。という3つのルールで行われるもので、本を使って新たなコミュニケーションを生み出す活動として全国的に広がりを見せています。

今回は30名を超える参加者が集まり、「旅」をテーマに3名の出場者がプレゼンテーションを行いました。

出場者の研究内容や経験談を交えたプレゼンテーションに、参加者からは、「馴染みのないジャンルの本だが読んでみたいと思った」、「同じテーマでも様々なジャンルの本が紹介されて面白かった」といった感想が聞かれました。また終了後には、参加者同士が紹介された本について語り合う姿も見られ、紹介された本に強く興味を引かれた様子がうかがえました。

「北大ビブリオバトル」は今後も定期的に行われる予定です。日程は随時、附属図書館のホームページでご案内しますので、出場者として、参加者として、ぜひご参加ください。

(附属図書館)



得能さんによるプレゼンテーション



チャンプ本の投票結果発表

ビブリオバトルで紹介された本

1. 「ベンヤミンの黒い靴：亡命の記録」 リーザ・フィットコ著、野村美紀子訳 晶文社 (1993)
(文学研究科博士後期課程 秋元由裕)
2. 「ドン・キホーテ」 セルバンテス著、牛島信明訳 岩波書店 (2001)
(文学研究科博士後期課程 池田 誠)
3. 「洗面器でヤギごはん」 石田ゆうすけ著 実業之日本社 (2006)
(附属図書館利用支援課職員 得能由貴)

★今回のチャンプ本：「ベンヤミンの黒い靴：亡命の記録」(獲得票数：12票)

大学文書館で大学関係の記念品・物品を収集

6月1日（金）、大学文書館では、佐竹順一氏から、「山火事注意」を喚起する手ぬぐい4点（農学部附属演習林作製）、北海道大学創基百周年記念ネクタイピン・ネックレス（札幌同窓会作製）の寄贈を受けました。いずれも、関係者に配付された大学関係の記念品・物品です。

大学文書館では、これまでに、大学関係者や学内の諸部局・部署から、これらの記念品・物品を受贈してきました。例えば、1936（昭和11）年、天皇

が来学した際の文武会作製記念メダル、創基八十周年記念のベルトバックル・ペンダント（1956年）、創基百年記念の提灯行列で用いた提灯（1976年）、学生寮新設・閉寮記念キーホルダー（1983年）、創基125年記念キーホルダー（2001年）、農学部本館建物型のオルゴールなどの記念品、宮部金吾がかかわった札幌博物学会の印鑑、附属農場が生産・販売していた牛乳の空き瓶とキャップ、改組・廃止となった学内機関・施設の看板などの物品です。

これらの記念品・物品は、当時の大学の雰囲気や時代状況を示す貴重な大学沿革資料となります。このような大学関係の記念品・物品をお持ちの方は、大学文書館へご一報ください。展示などの企画で活用して広くご覧いただき、また同様の記念品や商品を作製する際の見本・参考として利用してまいります。

（大学文書館）



演習林手ぬぐい



ネクタイピン・ネックレス



提灯

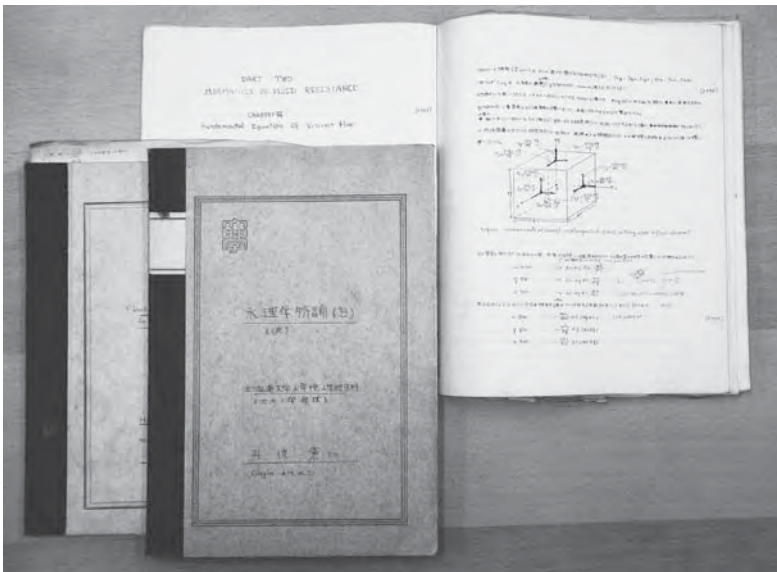


牛乳瓶とフタ

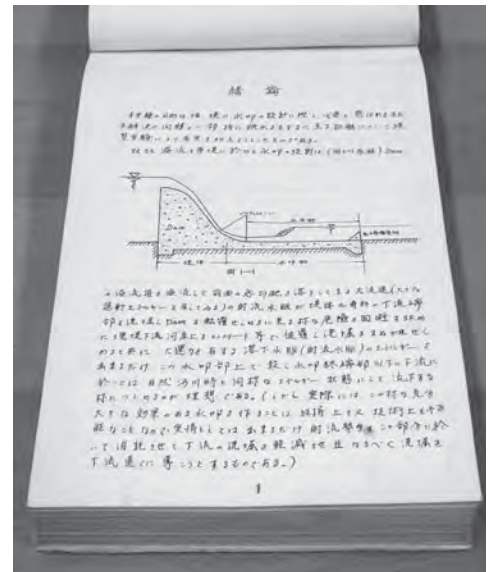


札幌博物学会の印章

大学文書館で元総長丹保憲仁名誉教授より資料を受贈



大学院生時代の受講ノート



卒業論文「溢流堰堤水叩に関する若干の考察」

5月10日(木)、大学文書館では、丹保憲仁名誉教授(元総長)から、資料46点の寄贈を受けました。

丹保名誉教授は、1951(昭和26)年北海道大学へ入学、1955年に工学部土木工学科を卒業して大学院に進学、1957年工学研究科土木工学専攻修士課程を修了しました。その後、発足したばかりの衛生工学科の講師に就任し、助教授・教授と昇任しました。水環境工学、都市水工学の研究を進め、1965年には工学博士号を取得しました。大学運営においては、1991～93年に学生部長、1993～95年に工学部長、1995～

2001年には総長を務めました。北海道大学退職後も放送大学長、北海道開拓記念館長などを歴任し、現在は北海道立総合研究機構理事長の重責を担われています。

受贈資料は、学生時代のノートと卒業論文、教授・工学部長・総長時代に関わられた大学の機構改革・環境整備などの各種調査・報告・答申・計画、工学部長・総長時代の挨拶・講演原稿などです。

丹保名誉教授は新制発足後間もない北海道大学に入学し、総長在任期は国立大学法人化などの大学改革期にあ

りました。丹保名誉教授が北海道大学に在籍した半世紀は、まさに戦後の北海道大学の一時代を貫いています。丹保名誉教授からは、2008年4月に総長時代の文書資料をご寄贈いただいています。今回の寄贈分と併せ、戦後期の北海道大学の歴史を通観する非常に貴重な資料ということができます。

今後、大学文書館では、これらの資料を大学の歴史の示す資料として活用できるように、大切に保管してまいります。

(大学文書館)

大学文書館で櫻井俊郎旧蔵資料を受贈

5月14日(月)、大学文書館では、櫻井 彰氏より、ご尊父櫻井俊郎の旧蔵資料1箱をご寄贈いただきました。

櫻井俊郎は、1939(昭和14)年札幌第一中学校を卒業後、北海道帝国大学農学部農学実科に入学して、1942年9月農学実科第34期として卒業しました。戦後は、雪印乳業株式会社勤務し、東京酪農科学研究所員や販売推進部次長等を務めました。

この度、受贈した資料は、(1)卒業記念アルバム2冊(札幌第一中学校第43期、北海道帝国大学農学実科)、(2)印画紙写真139枚・ネガ21コマ、(3)農学実科の帽子徽章1点、(4)北大創基八十周年記念のバックル1点、(5)北海道帝国大学等の絵はがき21枚、(6)実科卒業記念誌『離愁無限』ほか刊行物1点、(7)「農学実科第43期生卒業生一覧・担当教官一



農場製造「トマトケチャップ」のラベル

覧」1点、(8)札幌第一中学校卒業記念の湯飲み茶碗等です。卒業記念アルバムや写真からは当時の学生生活がうかがえます。農学実科卒業記念アルバムには、農場製造トマトケチャップのラベルも貼付されています。

今後、大学文書館では、受贈資料を整理し、大学沿革史資料として保管し、展示等により活用してまいります。

(大学文書館)



農場実習 (1939-42年頃)

大学文書館で諏訪望旧蔵資料を受贈

6月4日(月)、大学文書館では、諏訪 基氏より、ご尊父の諏訪 望博士(1912-1999)の旧蔵資料1箱をご寄贈いただきました。

諏訪 望博士は、1938(昭和13)年3月東京帝国大学医学部医学科を卒業しました。卒業後は副手として、北海道帝国大学から赴任直後の内村祐之教授のもとで、精神医学を専攻しました。軍医として国府台陸軍病院に配属された後、1947年4月医学博士の学位を取得、日本医科大学教授を経て、1949年4月北海道大学医学部精神病学講座に第四代教授として着任しました。1976年退官されるまで、医学部において精神医学の教育・研究・診療体制の整備

に尽力しました。附属病院長(1963~1965)、医学部長(1967~1969)等、大学運営の重責も担いました。

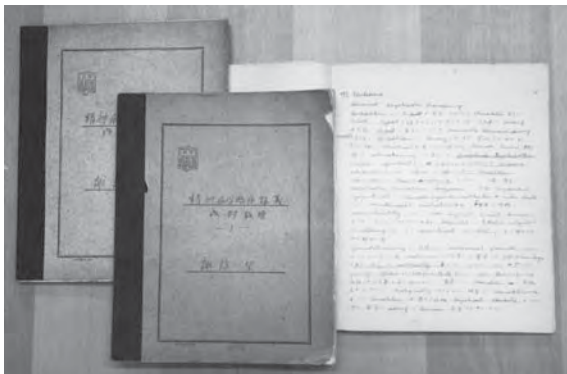
この度、受贈した資料は、(1)東大学生時代の受講ノート、(2)北大教授時代の講義原稿、(3)論文・学会講演・著書・教科書「最新精神医学」の草稿・原稿類、(4)最終講義の原稿・録音テープ、(5)著作物、(6)スクラップブック、(7)叙勲関係記事・通知類です。

(1)には、内村祐之教授の「精神病学臨床講義」3冊が含まれています。内村教授の講義について、諏訪望博士は「3年生の2学期から1年間、内村祐之教授の臨床講義を聴講した。

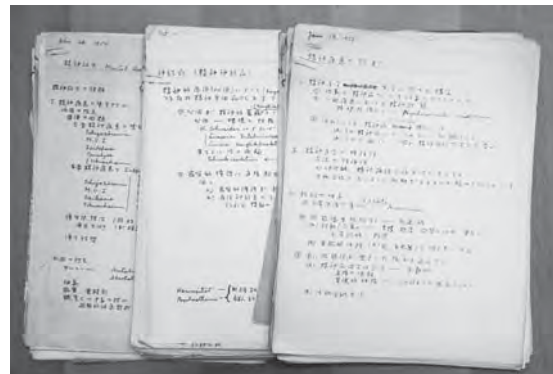
内村教授の講義は「麻痺性痴呆」から「司法精神医学」に到るまで、組織的で明快なもので、精神医学に対する興味と理解を深めることができた」(『精神医学とともに60年』21頁)と後年、回想しています。(2)はアメリカ精神医学の現況を視察した直後の1953~56年頃に作成された「神経症」・「精神衛生」等の講義原稿です。

今後、大学文書館では、受贈資料を整理し、精神医学史・大学沿革史上の学術資料として保管・活用してまいります。

(大学文書館)



受講ノート「精神病学臨床講義 内村教授」



講義原稿

■お知らせ

平成24年度北海道大学公開講座(全学企画)「私たちの未来とリスク」

主催：北海道大学

講座内容

東日本大震災を契機として、私たちの社会のあり方が見直されるなか、「リスク」をキーワードに、多面的な視点から、科学技術や防災、エネルギー、社会福祉などの課題にアプローチしていきます。

実施期間

平成24年7月2日(月)～7月30日(月) ※この期間の月曜と木曜の18:30から20:30まで

会場：北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室(札幌市北区北17条西8丁目)

受講資格：18歳以上の方であればどなたでも受講できます。(学歴・職歴は問いません)

申込手続きの流れ

①はじめに、定員の超過の有無をご確認ください。(希望される講義の開催3日前まで)



定員に余裕がある場合

②専用の払込票により、郵便局または銀行等の窓口で受講料をお支払いください。その際、控えとして受け取った「振替払込受付証明書(E票)」は、受講申込みに必要ですのでなくさないようご注意ください。



③E票を裏面に貼付した受講申込書を直接窓口へご持参いただくか、郵送でお申し込みください。

受講料

全8回の講義を受講 5,000円
特定回の講義を受講 1回あたり1,500円 ※既納の受講料はお返しできませんので、ご了承ください。

定員：100名程度

修了証書：6回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。

道民カレッジ：本講座は道民カレッジ連携講座として指定されています。(環境生活学 16単位)

問い合わせ・申込先

国立大学法人北海道大学学務部教務課(教育推進担当) 内線：5567

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育推進機構1階 6番公開講座窓口

日程・講義題目等

日 程	講 義 題 目	講 師
第1回 7月2日(月)	健康とリスク -健康の社会的規定要因-	教育学研究院 教授 河口 明人
第2回 7月5日(木)	「少子化する高齢社会」のリスクとタスク	文学研究科 教授 金子 勇
第3回 7月9日(月)	福島原発事故から見る科学技術の社会的リスク	法学研究科 教授 鈴木 一人
第4回 7月12日(木)	子ども・若者が直面する「リスク」と貧困・社会的不利	教育学研究院 教授 松本伊智朗
第5回 7月19日(木)	地球温暖化と二酸化炭素 -陸上生態系による調節-	農学研究院 教授 平野 高司
第6回 7月23日(月)	地震予知研究 -最新の成果と課題-	理学研究院 准教授 勝俣 啓
第7回 7月26日(木)	次世代分散型電源と自然冷熱エネルギーの有効利用	工学研究院 准教授 濱田 靖弘
第8回 7月30日(月)	北方圏都市の持続的発展の未来像	サステイナビリティ学教育研究センター 教授 田中 教幸

講義時間約90分、質疑・応答約30分

(学務部教務課)

「北海道大学 緑のビアガーデン2012」のご案内

美しい緑のキャンパスの夕べをビアガーデンとして広く一般に開放し、多くの皆様に足を運んでいただき、より身近に本学を感じていただくため、今年も「緑のビアガーデン」を開催します。平成18年に初めて開催し、今年で7回目の開催となります。

期 間	7月31日(火)～8月3日(金) 4日間
時 間	17:00～20:30 (20:00オーダーストップ)
会 場	北海道大学百年記念会館(札幌市北区北9条西5丁目) 1階屋内及び会館周辺
席 数	屋内96席、屋外275席、芝生席約200席(芝生に敷くビニールシートをご用意しています) ※席の予約は、屋内96席分をご用意しています。(前売りチケットの購入が必要)
メニュー	生ビール 300円(税込み)、ソフトドリンク 150円(税込み)、フード 300円(税込み)から ※北大農場の生産物を利用したフードを提供する予定です。
チケット	商品はチケットか現金でのご利用になります。 <u>チケットをご利用いただくと便利でお得です。</u> ◆前売りチケット ※販売期間:6月下旬～7月30日(月) 3,000円(150円券24枚綴り:3,600円相当) ◆当日チケット ※販売期間:7月31日(火)～8月3日(金) 3,000円(150円券22枚綴り:3,300円相当)
主 催	北海道大学
協 力	レストランきゃら亭(東京ケータリング株式会社)、キリンビールマーケティング株式会社
後 援	さっぽろ夏まつり実行委員会

チケット販売及び座席予約に関するお問い合わせ

百年記念会館内「レストランきゃら亭」

電話:011-726-0061

※座席予約の際には、前売りチケットを購入願います。

(総務企画部広報課)

北海道大学インフォメーションセンター「エルムの森」 及び「エルムの森ショップ」時間延長のお知らせ

北海道大学インフォメーションセンター「エルムの森」では、“緑のビアガーデン”開催期間中の7月31日(火)～8月3日(金)の4日間、午後9時まで開館時間を延長して皆様のお越しをお待ちしています。

「エルムの森」では、本学の広報誌、大学・学部案内などをご用意しています。大学紹介DVDの視聴やインターネットを利用して、学内ウェブサイト内の各種情報を検索できます。

また、「エルムの森ショップ」も同様に午後9時までオープンしていますので、ぜひお立ち寄りください。

「エルムの森ショップ」では、文具や記念品などの北大グッズに加え、大学認定のハム、日本酒、梅酒、北海道大学出版会発行の書籍などを多数取り揃えています。お土産や贈り物としてご利用ください。

なお、「エルムの森」へのご来場には、アルコール類の持ち込みはご遠慮くださいますようお願いいたします。



インフォメーションセンター「エルムの森」の外観

(総務企画部広報課)

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成24年5月10日）

- 報告事項・平成25年度施設整備費概算要求に係る学内ヒアリングの結果について
- ・平成23年度構内入構車両の状況について
 - ・夏季における勤務時間中の軽装「クールビズ」について
 - ・平成23年度決算速報について
 - ・平成23年度資金の運用状況について
-

教育研究評議会（平成24年5月16日）

- 議 題・総長選考会議委員の選出について
- ・経営協議会の学外委員について
- 報告事項・探索医療教育研究センターの部門再編及び室設置について
- ・全学運用教員の措置について
 - ・今冬の節電対策の結果について
 - ・平成23年度構内入構車両の状況について
 - ・夏季における勤務時間中の軽装「クールビズ」について
 - ・ヘルシンキオフィスの開所式について
-

役員会（平成24年5月24日）

- 議 案・博士課程教育リーディングプログラムの申請について
- ・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）への申請に係る課題登録について
 - ・就業規則関連規程の一部改正について
- 協議事項・現代日本学プログラム課程について
- ・全学運用教員の措置について
- 報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2012の開催について
- ・未登録の国際規制物資について
 - ・平成25年度特別経費 文部科学省事前説明の状況について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則

（平成24年6月1日海大達第80号）

国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程

（平成24年6月1日海大達第81号）

国立大学法人北海道大学職員給与規程等の一部を改正する規程

（平成24年6月1日海大達第82号）

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程

（平成24年6月1日海大達第83号）

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法第63条第3項の規定を踏まえ、職員の給与について、社会一般の情勢に適合したものとし、かつ、国家公務員の給与水準を十分考慮して国民の理解が得られる適正なものとするため、①50歳台以上の職員に重点を置いて基本給月額を引き下げること、②平成18年4月の基本給の切替えに伴う経過措置にかかる算定の基礎額を引き下げるとともに支給期間を平成26年3月31日までとすること、並びに③36歳未満の職員で平成19年1月1日、平成20年1月1日又は平成21年1月1日に昇給等をした職員の号俸を調整することに伴い、所要の改正を行ったものです。（国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程は、平成24年4月1日適用）

表敬訪問

国内

月 日	来 訪 者
24.5.25	独立行政法人科学技術振興機構 理事長 中村 道治 氏



独立行政法人科学技術振興機構
理事長 中村 道治 氏 (中央)

(総務企画部広報課)

海外

月 日	来 訪 者	来 訪 目 的
24.5.9	駐日カナダ大使館 Jonathan T. Fried 特命全権大使	両国の交流に関する懇談
24.5.10	華中科技大学 (中国) 李 培根 学長	両大学の交流に関する懇談
24.5.10	西北農林科技大学 (中国) 張光強 書記	両大学の交流に関する懇談
24.5.12	中国国家外国専門家局 張建国 局長	海外ハイレベル人材招致計画「千人計画」の紹介
24.5.17	キング・ファイサル大学 (サウジアラビア) Abdullah Ibrahim Al-Saadat 副学長	両大学の交流の可能性に関する懇談
24.5.29	アラスカ大学 (アメリカ) Scott Lin Huang 教授	工学研究院が実施するサマープログラムの引率



駐日カナダ大使館 Jonathan T. Fried
特命全権大使 (中央右)



華中科技大学 李 培根 学長 (中央)



西北農林科技大学 張光強 書記 (中央右)



中国国家外国専門家局 張建国 局長 (中央左)



キング・ファイサル大学 Abdullah Ibrahim
Al-Saadat 副学長 (右から3人目)



アラスカ大学 Scott Lin Huang 教授 (右側)

(国際本部国際連携課)

■人事

平成24年5月17日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成26年5月16日まで)	山本 伸 弘	北海道高等学校長協会会長，北海道札幌月寒高等学校長

平成24年5月31日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【技術職員】 (辞職)	佐々木 優 果	北海道大学病院看護部看護師

平成24年6月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 国際本部留学生センター教授	小 林 由 子	国際本部留学生センター准教授
【准教授】 探索医療教育研究センター准教授	稲 毛 富士郎	採用
【講師】 大学院歯学研究科講師	大 廣 洋 一	大学院歯学研究科助教
【助教】 大学院法学研究科助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教	石 神 圭 子 中 村 光 一 夏井坂 光 輝	採用 採用 採用
【技術職員】 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師 アイソトープ総合センター	今 井 俊 吾 菅 原 亮 輔 阿 保 憲 史	北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 採用

新任教授紹介

平成24年6月1日付



国際本部留学生センター
教授に

こばやし よしこ
小林 由子 氏

生年月日

昭和36年2月23日

最終学歴

北海道大学大学院文学研究科修士課程修了(平成元年3月)
文学修士(北海道大学)

専門分野

日本語教育

資料

在籍学生数（平成24年5月1日現在）

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

学部

学部等名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人] [10人]	2人	192人	202人	261人	一人	一人	657人 (311<47.3%>)	11人	15人	43人	31人	757人 (376<49.7%>)
教育学部	50 [10]		50	71	76	—	—	197 (93<47.2 %>)		19	12	3	231 (111<48.1 %>)
法学部	200 [10] [10]		226	230	262	—	—	718 (218<30.4 %>)		5		7	730 (223<30.5 %>)
経済学部	190	1	198	206	244	—	—	649 (173<26.7 %>)		1	17	11	678 (188<27.7 %>)
理学部	300		322	293	349	—	—	964 (221<22.9 %>)	2	5	4	2	977 (223<22.8 %>)
医学部	287 [5] [20]	1	332	314	290	89	114	1,140 (474<41.6 %>)					1,140 (474<41.6 %>)
歯学部	53		53	58	48	60	54	273 (99<36.3 %>)			2		275 (99<36.0 %>)
薬学部	80	2	88	76	95	30	30	321 (114<35.5 %>)		1	1		323 (115<35.6 %>)
工学部	670 [10]		741	692	779	—	—	2,212 (269<12.1 %>)		1		11	2,224 (269<12.1 %>)
農学部	215	10	220	232	254	—	—	716 (220<30.7 %>)	3	2		7	728 (226<31.0 %>)
獣医学部	40		43	42	40	41	44	210 (88<41.9 %>)				1	211 (89<42.2 %>)
水産学部	215	7	228	215	226	—	—	676 (186<27.5 %>)		3		11	690 (193<28.0 %>)
総合教育部	—	2,697	—	—	—	—	—	2,697 (793<29.4 %>)					2,697 (793<29.4 %>)
合計	2,485 [15] [60]	2,720	2,693	2,631	2,924	220	242	11,430 (3,257<28.5 %>)	16	52	79	84	11,661 (3,379<29.0 %>)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

研究所等

研究所等名	研究生	特別研究生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
低温科学研究所	1人	人	一人	一人	1人(1<100.0%>)
電子科学研究所	1	1	—	—	2 (1<50.0 %>)
触媒化学研究センター	1		—	—	1 (0<0.0 %>)
スラブ研究センター	2	1	—	—	3 (0<0.0 %>)
国際本部	1		27	9	37 (20<54.1 %>)
総合博物館	2		—	—	2 (0<0.0 %>)
北方生物圏フィールド科学センター	3		—	—	3 (1<33.3 %>)
観光学高等研究センター	1		—	—	1 (1<100.0 %>)
合計	12	2	27	9	50 (24<48.0 %>)

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。

生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。

■大学院

研究科名	修士課程 (博士前期)				専門職学位課程				博士課程 (博士後期及び博士一貫)					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講生	特別研究生	合計		
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文学研究科	90人	108人	144人	252人 (147(58.3%))	—	—	—	—	—	35人	44人	46人	122人	—	212人 (107(50.5%))	7人	3人	6人	2人	1人	483人 (264(54.7%))
法学研究科	20	23	30	53 (18(34.0))	80	29	24	25	177 (34(19.2))	15	17	11	21	—	49 (16(32.7))		2	8	8	1	298 (74(24.8))
経済学研究科	30	33	34	67 (30(44.8))	20	24	20	—	44 (4(9.1))	15	8	6	19	—	33 (11(33.3))	1		1	1	1	148 (48(32.4))
医学研究科	30	16	27	43 (18(41.9))	—	—	—	—	—	100	92	78	87	150	407 (103(25.3))			6	1	3	460 (126(27.4))
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	40	45	38	41	164 (59(36.0))			15			179 (63(35.2))
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	18	21	21	20	80 (21(26.3))			8			88 (25(28.4))
情報科学研究科	177	206	225	431 (30(7.0))	—	—	—	—	—	42	52	43	79	—	174 (28(16.1))			3	2	5	615 (59(9.6))
水産科学院	90	117	125	242 (55(22.7))	—	—	—	—	—	35	20	20	40	—	80 (26(32.5))					4	326 (83(25.5))
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (0(0.0))
水産科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1 (0(0.0))						1 (0(0.0))
環境科学院	159	132	168	300 (86(28.7))	—	—	—	—	—	63	44	52	85	—	181 (53(29.3))					2	483 (140(29.0))
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			8			8 (1(12.5))
理学院	129	134	131	265 (37(14.0))	—	—	—	—	—	56	31	21	99	—	151 (38(25.2))					4	420 (75(17.9))
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			4			4 (0(0.0))
理学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1 (0(0.0))						1 (0(0.0))
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 (0(0.0))
農学院	150	188	180	368 (110(29.9))	—	—	—	—	—	50	39	41	74	—	154 (53(34.4))						522 (163(31.2))
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			10			10 (2(20.0))
農学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1 (0(0.0))						1 (0(0.0))
生命科学学院	132	124	124	248 (72(29.0))	—	—	—	—	—	46	41	48	58	—	151 (51(33.8))					1	400 (123(30.8))
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4				—						0 (0(0.0))
教育学院	45	45	52	97 (54(55.7))	—	—	—	—	—	21	21	25	54	—	100 (55(55.0))	1		3	1		202 (112(55.4))
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			4			4 (2(50.0))
教育学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22	—	22 (13(59.1))						22 (13(59.1))
国際広報メディア・観光学院	42	44	66	110 (70(63.6))	—	—	—	—	—	17	16	16	36	—	68 (37(54.4))				1		179 (108(60.3))
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			6			6 (5(83.3))
国際広報メディア研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7 (6(85.7))						7 (6(85.7))
保健科学院	26	35	33	68 (33(48.5))	—	—	—	—	—	8	14	11	18	—	43 (17(39.5))	1				1	113 (50(44.2))
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			7			7 (4(57.1))
工学院	326	349	377	726 (71(9.8))	—	—	—	—	—	69	70	79	35	—	184 (30(16.3))					1	911 (101(11.1))
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			12			12 (3(25.0))
工学研究科	—	—	6	6 (0(0.0))	—	—	—	—	—	—	—	—	55	—	55 (3(5.5))						61 (3(4.9))
総合化学院	129	154	143	297 (64(21.5))	—	—	—	—	—	38	32	36	30	—	98 (14(14.3))					2	397 (79(19.9))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	37	41	—	78 (16(20.5))	—	—	—	—	—	—	1	1		1		81 (16(19.8))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 (0(0.0))
合計	1,575	1,708	1,865	3,573 (895(25.0))	130	141	133	25	299 (54(18.1))	680	603	599	1,003	211	2,416 (741(30.7))	9	8	99	19	27	6,450 (1,748(27.1))

(学務部教務課)

平成24年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

平成24年 5月1日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文 学 部		2(2)			1(1)	66(45)	69(48)
教 育 学 部					4(4)	14(12)	18(16)
法 学 部					2(1)	7(4)	9(5)
経 済 学 部	2(2)	1			2(1)	25(15)	30(18)
理 学 部					3	3(2)	6(2)
医 学 部					3(2)		3(2)
歯 学 部					2(2)		2(2)
薬 学 部		1(1)					1(1)
工 学 部	12(5)		17(4)		14(4)	11(2)	54(15)
農 学 部					3(1)	7(5)	10(6)
獣 医 学 部					1(1)	1(1)	2(2)
水 産 学 部					3(1)	9(5)	12(6)
総 合 教 育 部	2(1)		6		12(8)		20(9)
合 計	16(8)	4(3)	23(4)	0(0)	50(26)	143(91)	236(132)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文 学 研 究 科	3(3)		8(4)	1	9(8)		11(10)		64(47)		29(18)	4(3)	129(93)
法 学 研 究 科			6(3)		1(1)		8(4)	2	29(13)		16(5)	14(5)	76(31)
経 済 学 研 究 科	3(2)		1		1(1)		2(1)	1(1)	34(23)		6(5)	1(1)	49(34)
医 学 研 究 科	1		8(3)				5(3)		4(1)		9(6)	2	29(13)
歯 学 研 究 科			2(1)								7(3)	1(1)	10(5)
獣 医 学 研 究 科			19(7)				1				8(3)	1(1)	29(11)
情 報 科 学 研 究 科	5(2)		11(3)	1	5(1)		14(3)		32(5)		28(10)	8(1)	104(25)
水 産 科 学 研 究 院	2		7(2)		1(1)		6(3)		13(5)		12(7)	4(2)	45(20)
環 境 科 学 研 究 院	2(2)		12(5)		1(1)		14(4)		17(9)		37(16)	1(1)	84(38)
地 球 環 境 科 学 研 究 院												5(1)	5(1)
理 学 研 究 院	4(2)		13(4)		1		6(3)		8(2)		19(5)	1	52(16)
農 学 研 究 院	10(3)		25(17)		2(1)		18(8)		20(14)		21(8)		96(51)
農 学 研 究 院				3								1	4(0)
生 命 科 学 研 究 院			19(7)		3(2)		3(1)		7(2)		24(13)		56(25)
教 育 学 研 究 院					2(1)		1	1	28(18)		10(8)		42(27)
教 育 学 研 究 科											2(2)		2(2)
国 際 広 報 メ デ ィ ア ・ 観 光 学 院	1		3(1)		1(1)		5(2)		41(34)		7(4)	1(1)	59(43)
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 研 究 院												3(3)	6(5)
国 際 広 報 メ デ ィ ア 研 究 科											1(1)		1(1)
保 健 科 学 研 究 院					1				1(1)				2(1)
保 健 科 学 研 究 院												3(2)	3(2)
工 学 研 究 院	18(4)		25(7)		4		28(10)		24(5)		16(3)	1	116(29)
工 学 研 究 院				1								3(1)	4(1)
工 学 研 究 科			7				2				9(1)		18(1)
総 合 化 学 研 究 院	1(1)		6(2)				2(2)		10(5)		20(4)	2(1)	41(15)
公 共 政 策 学 教 育 部		1									3(1)		5(1)
電 子 科 学 研 究 所								1				1(1)	2(1)
触 媒 化 学 研 究 セ ン タ ー												1	1(0)
ス ラ ブ 研 究 セ ン タ ー				2									3(0)
北 方 生 物 圏 フ ィ ー ル ド 科 学 セ ン タ ー				1									2(1)
合 計	50(19)	1(0)	172(66)	12(2)	32(18)	0(0)	126(54)	6(1)	332(184)	3(1)	281(122)	60(26)	1,075(493)

日本語研修生等

国 際 本 部 留 学 生 セ ン タ ー	日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生		日 本 語 研 修 生		合 計
	国 費	私 費	国 費	私 費	
	11(7)	16(9)	9(3)		36(19)

外国人留学生総数

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研 究 生 等	日 本 語 研 修 生 日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生	留 学 生 総 数
	修士課程	専門職学位課程	博士課程			
89(38)	414(221)	4(1)	579(242)	225(123)	36(19)	1,347(644)

* () 内は女子を内数で示す。

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む。

(国際本部国際支援課)

平成24年度国別外国人留学生数

平成24年5月1日現在

Table with columns for Region (地域), Country (国名), Department (学部), University (大学院), Government Dispatch (政府派遣), Private (私), and Total (合計). Rows list countries like India (インド), China (中国), USA (アメリカ合衆国), etc., with student counts.

※ () 内は女子を内数で示す。

(国際本部国際支援課)

平成23年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学部

平成24年5月1日現在

項目	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)							
(A) 卒業生数	(105) 196	(39) 54	(64) 220	(49) 207	(69) 317	(20) 98	(129) 198	(26) 53	(26) 68	(79) 721	(67) 226	(20) 44	(63) 211	(756) 2,613					
(B) 就職希望者数	(73) 128	(25) 39	(46) 148	(43) 169	(12) 54	(105) 153	(1) 1	(16) 29	(19) 105	(20) 50	(16) 32	(27) 60	(403) 968						
(C) 就職者数	(0) (60) (0) 105	(0) (25) (0) 34	(0) (35) (1) 126	(0) (38) (0) 156	(1) (10) (4) 42	(2) (106) (3) 153	(1) (1) (1) 1	(0) (15) (0) 28	(0) (18) (0) 102	(0) (19) (0) 46	(0) (16) (0) 32	(0) (23) (1) 52	(4) (365) (10) 877						
うち 道外就職者	(23) 49	(10) 14	(20) 70	(25) 95	(9) 28	(31) 46		(12) 20	(10) 64	(15) 34	(12) 23	(18) 28	(185) 471						
うち 有職者			1										(0) 1						
(D) 就職率(%)	(82.2) 82.0	(100.0) 87.2	(76.1) 85.1	(88.4) 92.3	(83.3) 77.8	- 100.0	(100.0) 100.0	(93.8) 96.6	(94.7) 97.1	(95.0) 92.0	(100.0) 100.0	(85.2) 86.7	(90.6) 90.6						
(E) 進学者数	(18) (20) (39) 41	(0) (10) (0) 14	(6) (7) (31) 43	(2) (3) (18) 21	(50) (54) (234) 253	(0) (0) (1) 1	(13) (20) (28) 39	(0) (0) (0) 1	(9) (10) (38) 39	(54) (55) (575) 594	(0) (45) (8) 10	(2) (3) (143) 147	(32) (35) (1,115) 1,371						
うち 大学院	(18) (20) (39) 41	(10) 14	(6) (7) (31) 43	(2) (2) (18) 20	(50) (53) (234) 252	(1) 1	(28) 36	1	(9) (10) (38) 39	(54) (55) (575) 593	(45) 168	(2) (3) (8) 9	(31) (33) (142) 145	(185) (255) (1,114) 1,362					
うち 大学				(1) (1)	(1) (1)		(3) (3)						(1) (2)	(7) (7)					
うち 就職している者																			0
(F) その他	(25) 50	(4) 6	(22) 51	(8) 30	(5) 22	(20) 97	(4) 6	(25) 51	(1) 1	(6) 25	(3) 12	(1) 2	(5) 12	(129) 365					

・A=C+E+F ・D=C÷B×100 ・上段()は、女子で内数/就職率()は、女子の就職率。

・就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。

・進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。

◇医学部については、卒業後2年間の研修期間がある。

◇歯学部については、卒業後1年間の研修期間がある。

修士課程

項目	文学研究科		法学研究科		経済学研究科		医学研究科		情報科学研究科		水産科学院		環境科学院		理学院		農学院		生命科学院		教育学院		国際広域メディア研究科		保健科学院		工学院*		総合化学院		合計	
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)		
(A) 修了者数	(46) 83	(9) 24	(15) 30	(11) 19	(16) 200	(25) 108	(25) 102	(13) 114	(59) 167	(46) 116	(26) 40	(22) 35	(12) 36	(34) 344	(30) 138	(389) 1,556																
(B) 就職希望者数	(22) 40	(3) 5	(5) 12	(5) 6	(9) 172	(20) 93	(19) 71	(7) 74	(46) 137	(28) 76	(14) 23	(7) 15	(9) 26	(29) 299	(27) 120	(250) 1,169																
(C) 就職者数	(0) (16) (0) 28	(0) (2) (0) 4	(0) (5) (0) 12	(0) (5) (0) 6	(0) (9) (0) 167	(1) (19) (2) 90	(3) (17) (6) 66	(0) (6) (1) 70	(0) (44) (0) 130	(0) (28) (0) 74	(0) (13) (0) 22	(0) (4) (0) 10	(0) (9) (0) 26	(0) (29) (0) 295	(1) (27) (2) 116	(5) (233) (11) 1,116																
うち 道外就職者	(5) 11		(4) 9	(3) 4	(6) 142	(14) 74	(12) 42	(5) 55	(33) 106	(21) 61	(1) 3	(2) 7	(4) 11	(27) 253	(23) 103	(160) 881																
うち 有職者	(1) 1	(2) 2	1		1		1				(3) 5	(3) 5			(7) 17																	
(D) 就職率(%)	(72.7) 70.0	(66.7) 80.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 97.1	(95.0) 96.8	(89.5) 93.0	(85.7) 94.6	(95.7) 94.9	(100.0) 97.4	(92.9) 95.7	(57.1) 66.7	(100.0) 100.0	(100.0) 98.7	(100.0) 96.7	(93.2) 95.5																
(E) 進学者数	(11) (11) (21) 21	(1) (1) (9) 9	(1) (1) (5) 5	(4) (4) (10) 11	(5) (5) (25) 26	(3) (3) (10) 11	(4) (5) (22) 24	(4) (5) (20) 24	(0) (8) (0) 21	(13) (14) (25) 28	(0) (4) (0) 8	(7) (7) (10) 10	(2) (2) (6) 9	(2) (2) (28) 29	(2) (3) (17) 18	(59) (75) (208) 254																
うち 大学院	(11) (11) (21) 21	(1) (1) (9) 9	(1) (1) (5) 5	(3) (3) (9) 10	(5) (5) (25) 26	(3) (3) (10) 11	(4) (5) (22) 23	(4) (5) (20) 24	(8) (13) (25) 28	(13) (14) (25) 28	(4) 8	(7) (7) (10) 10	(2) (2) (6) 9	(2) (2) (28) 29	(2) (3) (17) 18	(58) (74) (207) 252																
うち 大学				(1) (1)	(1) (1)		1									(1) (1)	(1) (2)															
うち 就職している者	1											(2) 2	(1) 1			(3) 4																
(F) その他	(19) 34	(6) 11	(9) 13	(2) 7	(2) 7	(3) 7	(3) 12	(2) 20	(7) 16	(4) 14	(9) 10	(11) 15	(1) 1	(3) 20	(0) 4	(81) 186																

・A=C+E+F ・D=C÷B×100 ・上段()は、女子で内数/就職率()は、女子の就職率。

・就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。

・進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。

* : ◇工学院には、工学研究科修了者を含む。

専門職大学院

項目	研究科等	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合計
		人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数		(17) 78	(5) 22	(8) 31	(30) 131
(B) 就職希望者数		(0) 1	(2) 14	(7) 29	(9) 44
(C) 就職者数		[0] (0) [0] 1	[0] (2) [0] 13	[0] (6) [0] 25	[0] (8) [0] 39
うち 道外就職者			(2) 8	(2) 15	(4) 23
うち 有職者		1	1	4	6
(D) 就職率(%)		- 100.0	(100.0) 92.9	(85.7) 86.2	(88.9) 88.6
(E) 進学者数					(0) 0
うち 大学院					0
うち 大学					0
うち 就職している者					0
(F) その他		(17) 77	(3) 9	(2) 6	(22) 92

・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段 () は、女子で内数/就職率 () は、女子の就職率。
 ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
 ◇法科大学院の (F) その他には、修了後に実施される新司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

項目	研究科(学院)																合計
	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	工学研究科	獣医学研究科	情報科学研究科	水産科学院*	環境科学院	理学院*	農学院*	生命科学院	教育学院*	国際広域メディア7 観光学院		
(A) 修了者数	[13] (16) [28] 37	[2] (2) [5] 7	[0] (5) [2] 12	[0] (11) [2] 76	[0] (9) [1] 29	[3] (7) [11] 56	[1] (7) [1] 23	[1] (5) [5] 42	[2] (6) [6] 20	[0] (10) [0] 36	[1] (16) [10] 55	[0] (14) [0] 43	[0] (11) [0] 30	[0] (8) [0] 16	[0] (0) [0] 2	[23] (127) [71] 484	
(B) 就職希望者数	(6) 16	(0) 2	(1) 4	(6) 60	(5) 16	(6) 45	(7) 20	(5) 39	(4) 13	(6) 20	(6) 25	(6) 24	(4) 14	(2) 6	(0) 2	(64) 306	
(C) 就職者数	[0] (3) [1] 10	[0] (0) [0] 2	[0] (1) [0] 4	[0] (6) [25] 60	[4] (5) [6] 15	[2] (5) [12] 40	[1] (7) [2] 20	[2] (4) [5] 33	[1] (4) [5] 13	[4] (6) [11] 18	[3] (6) [8] 21	[0] (6) [0] 18	[2] (4) [3] 13	[0] (2) [0] 6	[0] (0) [0] 2	[19] (59) [78] 275	
うち 道外就職者	(1) 4		1	7	(2) 2	(2) 28	(7) 18	(3) 24	(4) 10	(5) 12	(5) 17	(6) 14	(3) 12		1	(38) 153	
うち 有職者	2			14	2	7	1	11	1	2	1	6		2		49	
(D) 就職率(%)	(50.0) 62.5	- 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 93.8	(83.3) 88.9	(100.0) 100.0	(80.0) 84.6	(100.0) 100.0	(100.0) 90.0	(100.0) 84.0	(100.0) 75.0	(100.0) 92.9	(100.0) 100.0	- 100.0	(92.2) 89.9	
(E) 進学者数						[1] 1										(0) (0) [1] 1	
うち 大学院						[1] 1										[1] 1	
うち 大学																0	
うち 就職している者																0	
(F) その他	(13) 27	(2) 5	(4) 8	(5) 16	(4) 14	(2) 15	(0) 3	(1) 9	(2) 7	(4) 18	(10) 34	(8) 25	(7) 17	(6) 10	(0) 0	(68) 208	

・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段 () は、女子で内数/就職率 () は、女子の就職率。
 ・ 博士の修了者数 [] は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める。)
 ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
 ・ 進学者数 [] は、本学進学者で内数。
 * : ◇水産科学院には、水産科学研究科修了者を含む。
 ◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
 ◇農学院には、農学研究科修了者を含む。
 ◇教育学院には、教育学研究科修了者を含む。

2. 地域別就職状況

学部

平成24年5月1日現在

企業所在地	学部		文学部 就職者数	教育学部 就職者数	法学部 就職者数	経済学部 就職者数	理学部 就職者数	医学部		歯学部 就職者数	薬学部 就職者数	工学部 就職者数	農学部 就職者数	獣医学部 就職者数	水産学部 就職者数	合計
	医学部 就職者数	保健学科 就職者数														
北海道																
札幌市以外	39 (26)	16 (10)	4 (2)	16 (13)	46 (14)	55 (13)	9 (1)	82 (62)	1 (1)	6 (2)	1 (1)	32 (7)	9 (2)	3 (2)	13 (4)	311 (145)
青森県						2 (1)		25 (12)				1			1 (1)	93 (34)
岩手県							2 (1)	1							1 (1)	4 (2)
宮城県						1	2 (1)					2	1 (1)		1 (1)	2 (1)
秋田県	2				1	1 (1)		1 (1)				2				6 (2)
山形県	1															7 (2)
福島県	2							1 (1)								1
茨城県							1							2 (1)		4 (1)
栃木県																4 (1)
群馬県						1		1 (1)						1		0
埼玉県														1		3 (1)
千葉県								8 (3)					1 (1)	2 (1)		6 (4)
東京都	29 (15)	8 (6)	50 (14)	74 (20)	17 (5)			21 (18)		6 (2)	3 (2)	37 (6)	17 (9)	8 (5)	16 (10)	283 (110)
神奈川県	1 (1)							5 (1)				1			1 (1)	13 (6)
新潟県	1					1							2			8 (3)
富山県	1 (1)	2 (1)	1	3 (1)	1							3				10 (3)
石川県		1 (1)					1								1 (1)	4 (1)
福井県																1 (1)
山梨県																0
長野県					1 (1)											2 (1)
岐阜県																0
静岡県	3 (1)											3 (1)	6 (1)	1		14 (4)
愛知県	2 (1)				4 (1)	6 (2)	3 (1)	2 (2)				3 (2)	2 (2)	1 (1)	2 (1)	28 (13)
三重県														1 (1)	1 (1)	1 (1)
滋賀県					1			1					1			1 (1)
京都府	3 (1)					1		1 (1)						1		4 (1)
大阪府		3 (2)	4	3	4	3	1 (1)	2 (1)		2 (2)	6 (2)	1	1	2 (2)	3	27 (10)
兵庫県				1		1	1 (1)					1	1	1	1 (1)	5 (2)
奈良県																1
和歌山県																0
鳥取県																0
島根県																0
岡山県	2 (2)				1			1 (1)					1 (1)	1 (1)		5 (4)
山口県								1 (1)					1 (1)			2 (2)
徳島県																0
香川県												1				1
愛媛県																0
高知県																0
福岡県	2 (1)						1									3 (1)
佐賀県																0
長崎県																0
熊本県																0
大分県															1 (1)	1 (1)
宮崎県																0
鹿児島県														1		1
沖縄県																0
海外												1				1
就職先詳細不明	1 (1)											1 (1)				2 (2)
合計	105 (60)	34 (25)	126 (35)	156 (38)	42 (10)	0	153 (105)	1 (1)	28 (15)	102 (18)	46 (19)	32 (16)	52 (23)	877 (365)		

※ () は女子で内数
(注意) 理学部は札幌市以外を区別せず「北海道」として調査のため、便宜上「札幌市」に計上し集計。

修士課程

企業の所在地	研究科(学院)		文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	情報科学研究科	水産研究科	環境研究科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際理工学・観光学院	保健科学学院	工学院*	総合化学院	合計		
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	
北海道	札幌市以外	6 (2)	3 (2)	1																
	札幌市	9 (8)	3 (2)		2 (2)	2 (2)		11 (3)	14 (2)	10 (3)	9 (1)	18 (8)	5 (3)	12 (8)	2 (1)	14 (5)	33 (1)	9 (2)	166 (48)	
東北	青森県	6 (2)						2	1 (1)	1						1	3 (2)	62 (22)	5 (1)	
	岩手県							1 (1)		1									2 (1)	
	宮城県					2		1 (1)							1				6 (1)	
	秋田県							1 (1)											0	
	山形県								1 (1)		2 (1)						1		2 (1)	
関東	福島県										1 (1)								3 (2)	
	茨城県					1		2 (1)		2	1 (1)	1 (1)				6		11 (1)		
	栃木県					2 (1)		1 (1)			1 (1)	1 (1)				2 (1)	1	7 (4)		
	群馬県								1		3					1		5		
	埼玉県					1				2	2 (1)	2 (1)				2	3 (2)	10 (3)		
	千葉県	1			1 (1)	2 (2)	100 (5)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	24 (2)	2 (1)	41 (15)	3 (1)		6 (1)	3 (1)	19 (5)		
	東京都	6 (3)			2 (2)	6 (3)	37 (6)	3 (1)	20 (5)	7	67 (21)	6 (3)	6 (3)	5 (2)		151 (20)	66 (14)	534 (102)		
北陸	神奈川県	1 (1)				1		1	2	1 (1)	4 (1)	3 (1)				15 (1)	3	43 (4)		
	新潟県									1	1 (1)					1		7 (2)		
	富山県					2				1	1 (1)	1				1	1 (1)	7 (2)		
	石川県									1	1 (1)					1		2		
	福井県										1					1		0		
中部	山梨県																		0	
	長野県							3	1							1	2 (2)	7 (2)		
	岐阜県	1 (1)						1			1 (1)				1 (1)	1		5 (3)		
	静岡県							1		2	2	1				1		7		
	愛知県					11		1	1	1	3	2				19	3	41		
	三重県							5		2						1		8		
	滋賀県							2 (1)				1 (1)				2		5 (2)		
	京都府								1	3	1 (1)					1	3 (1)	9 (2)		
	大阪府					11		5	6 (2)	2 (1)	8 (2)	5			1	13 (2)	6 (2)	58 (9)		
	兵庫県					1 (1)		2 (1)		3	2 (2)				1	12	3	28 (4)		
中国	奈良県															1		1		
	和歌山県							1			1						1	3		
	鳥取県							1										1		
	島根県																	0		
	岡山県									1 (1)	1						1	3 (1)		
	広島県							1		1 (1)	1 (1)	1				3		7 (2)		
	山口県																1	1		
	徳島県																1	4 (1)		
	香川県											1	2 (1)			2		2		
	愛媛県							3 (1)	1 (1)							1		4 (1)		
四国	高知県																		2 (1)	
	福岡県	1													1		1	2 (1)		
	福岡県															3	1	10 (1)		
	佐賀県																	0		
	長崎県																	0		
	熊本県																	0		
九州	大分県																		0	
	宮崎県																		0	
	鹿児島県																		0	
	沖縄県																1	1		
	海外	1				1			1	1	2					3 (2)	1	10 (2)		
就職先詳細不明	2 (1)				1 (1)			1 (1)							3		1	8 (3)		
合計	28 (16)	4 (2)	12 (5)	6 (5)	167 (9)	90 (19)	66 (17)	70 (6)	130 (44)	74 (28)	22 (13)	26 (9)	116 (27)	295 (29)	116 (27)	1,116 (233)				

※()は女子で内数
* : ◇工学院には、工学研究科修了者を含む。

専門職大学院

企業 の所在地	研究科等		法科大学院 (法学研究科) 就職者数	会計専門職大学院 (経済学研究科) 就職者数	公共政策大学院 (公共政策学教育部) 就職者数	合 計	
	研究科等	就職者数				地域別就職者数	計
北海道	札幌市以外		1			14	(4)
	青森県			4	10	2	
東北	岩手県			1		0	
	宮城県					0	
	秋田県					0	
	山形県					0	
	福島県					0	
関東	茨城県					0	
	栃木県					0	
	群馬県					0	
	埼玉県					0	
	千葉県				1	1	
	東京都			7	12	19	(4)
北陸	神奈川県				1	1	
	新潟県					0	
	富山県					0	
	石川県					0	
	福井県					0	
中部	山梨県					0	
	長野県					0	
	岐阜県					0	
	静岡県					0	
	愛知県					0	
近畿	三重県					0	
	滋賀県					0	
	京都府					0	
	大阪府					0	
	兵庫県					0	
	奈良県					0	
中国	和歌山県					0	
	鳥取県					0	
	島根県					0	
	岡山県					0	
	広島県			1		2	
四国	山口県					0	
	徳島県					0	
	香川県					0	
	愛媛県					0	
九州	高知県					0	
	福岡県					0	
	佐賀県					0	
	長崎県					0	
	熊本県					0	
	大分県					0	
沖縄県	宮崎県					0	
	鹿児島県					0	
海外						0	
就職先詳細不明			1	13	25	39	(8)
合 計							

※ () は女子で内数

博士課程

企業の所在地	研究科(学院)		文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	工学研究科	医学研究科	工学研究科	農学研究科	環境科学科	理学院*	農学院*	生命科学	教育学院*	国際広域マテリアル科学院	合計
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	
北海道	5 (1)	1 (1)	1	1	2	31 (5)	9 (3)	11 (3)	2	2	5 (1)	1	3 (1)	3	1 (1)	1	1	79 (17)
札幌市以外	1 (1)					22 (1)	4	1			4		1	1		3 (2)		43 (4)
東北	1							1				1 (1)						2 (1)
青森県																		0
岩手県																		0
宮城県																		2 (1)
秋田県								1										2
山形県																		0
福島県																		0
茨城県								1 (1)					2 (1)	1				5 (3)
栃木県																		0
群馬県																		0
埼玉県																		0
千葉県																		0
東京都	2 (1)		1	1 (1)	1	1	1 (1)	6	4 (2)	8 (1)	2	1	7 (1)	2 (1)	5 (1)	1		41 (8)
神奈川県						1		2		7	2 (1)	4 (1)	1	1				18 (2)
新潟県												1		2				2
富山県																1		3 (1)
石川県																		0
福井県																		0
山梨県																		0
長野県													1 (1)					1 (1)
岐阜県																		0
静岡県																		0
愛知県								1 (1)	1	2			2 (1)		1			3 (1)
三重県																		7 (1)
滋賀県																		0
京都府																		0
大阪府						2				1			2	1	3	1		11
兵庫県									1				1		1 (1)			3 (1)
奈良県																		0
和歌山県																		0
鳥取県																		0
島根県																		0
岡山県																		0
広島県										1 (1)								1 (1)
山口県																		1
徳島県																		0
香川県																		0
愛媛県																		0
高知県																		0
福岡県																		1 (1)
佐賀県																		2 (2)
長崎県																		1
熊本県																		0
大分県																		0
宮崎県																		1
鹿児島県																		0
沖縄県																		1
海外						2												43 (15)
就職先詳細不明								15 (1)	7 (3)	4 (1)	4 (3)	3 (1)		7 (5)	1 (1)			
合計	10 (3)	2	4 (1)	60 (6)	15 (5)	40 (5)	20 (7)	33 (4)	18 (6)	21 (6)	18 (6)	13 (4)	6 (2)	2	275 (59)			

※()は女子で内数
 * : ◇水産科学院には、水産科学研究科修了者を含む。
 ◇理工学院には、理学研究科修了者を含む。
 ◇農学院には、農学研究科修了者を含む。
 ◇教育学院には、教育学研究科修了者を含む。

(学務部キャリアアセンター)

編集メモ

●今号の表紙は、1955年当時の旧医学部建物と中庭です。前回5月号の部局ニュース(23頁)で紹介しましたが、本学卒業生である上田茂穂様が在学中に撮影された写真です。その当時のキャンパスの様子が鮮明なカラー写真で記録されているのは貴重とのことですが、色彩も美しく、当時のキャンパスの雰囲気伝わってくるようです。

●ようやく札幌でも爽やかな夏を感じる季節となりました。先日の休日の北大構内では、学生達のグループがリラックスした様子でジンギスカンを囲んでいました。キャンパスを初めて訪れた東京の知人は驚いていましたが、今時期の北大ならではの光景ですね。



2007. 7. 8 大雪山小泉岳

北の息吹 62 エゾオヤマノエンドウ (*Oxitropis japonica* var. *sericea*)

決して大きな花ではないが、見通しのきく稜線上に鮮やかな赤紫色の花がかたまつて咲くので遠くからでもよく目立つ。絶滅危惧Ⅰ類とされている本変種は国内では大雪山のみに分布するが、母種のおヤマノエンドウの方は本州中部の高山帯に広く分布している。花はマメ科の植物に共通する蝶形で、立ち上がった大きな旗弁の基部には白い斑紋がある。この斑紋には花卉

と同色の筋模様が発達し、白色部分が制限されているのが普通だが、ここに示した個体では白色部分が目立っており、一層華やかな雰囲気である。密生するイワウメの葉をバックに、その白い花と混じって咲く様子も微笑ましい。

前理事・副学長 岡田 尚武

北大時報 ⑥ No.699 平成24年6月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL: (011) 706-2610 / FAX: (011) 706-4870 / E-mail: kouhou@jimuhokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/